

OKI

岐阜県瑞穂市に 「SS9100 TypeM」を用いたIP電話システムを納入

OKIは、岐阜県瑞穂市に同社のIPテレフォニーサーバ「IP CONVERGENCE Server SS9100 TypeM (SS9100 TypeM)」をベースとしたIP電話システムを納入した。なお本システムの提案、構築はNTT西日本が担当し、同社の「ひかり電話」回線を利用した通信ネットワークを提供している。

瑞穂市は2003年5月に岐阜県穂積町と巣南町との合併により誕生した都市である。同市では巣南分庁舎の交換機の老朽化を契機に、「ひかり電話」回線を収容し「岐阜情報スーパーハイウェイ」(県域ブロードバンドネットワーク)を介して本庁舎と分庁舎間の接続ができるPBXの採用を検討していた。

今回採用されたOKIのSS9100 TypeMを用いたIP電話システムは、既存のPBXを利用した段階的なIP電話への移行がスムーズに行えること、多彩な端末を1システムのサーバで制御できること、特に高品位なIP電話機を利用できることや、将来に向けて容易に拡張ができることが評価された。

SS9100 TypeMは巣南分庁舎内に設置され、同庁舎内のIP電話機や瑞穂市本庁舎の既設PBXと接続している。主要な電話端末として約70台のIP多機能電話機を採用し、高品位音質を実現する技術「eおと」の採用によって臨場感ある通話を実現。従来の使い慣れた電話機と同じ使い勝手を維持しつつ、30個にも及ぶフレキシブルキーにより、PBX機能の割り当てや利用頻度の高い番号の登録といった、新たな利便性も提供している。

瑞穂市では、SS9100 TypeMの特徴である拡張性を活かしつつ、本システムを岐阜情報スーパーハイウェイと融合させて、音声通信だけでなく、映像や情報などの利用による業務の効率化や市民への一層のサービス向上を目指し順次拡大していく予定である。

沖電気工業(株) IPシステムカンパニー 企画室
TEL : 03-5445-5706

NEC ネットエスアイ

鶴見大学が、利用目的別に複数のシンクライアントを 組み合わせた図書館システムを導入

鶴見大学は、NEC ネットエスアイのトータルサポートにより、国内での先駆的な事例として、職員と学生それぞれの利用目的別に、複数のシンクライアントシステムを組み合わせた図書館システムを導入した。

本システムは、地上3階、地下2階、延べ床面積7,366平方メートル、蔵書数約70万冊を数える鶴見大学の図書館に導入されたものであり、「システムの管理工数削減」「システムのセキュリティ対策」「ロケーションフリー」などの課題を解決するために、管理業務を行う職員向けおよび図書情報閲覧・レポート作成に使用する学生向けに、それぞれシステムコンセプトの異なるシンクライアントを組み合わせた構成となっている。本システムの特長はつぎのとおり。

●学生利用者向けにネットワークブート型シンクライアントシステム(端末50台)を導入:クライアントはディスクレス端末(NEC Mate シンクライアント)だが、CPUとメモリを内蔵しているため、全てのシステムをネットワーク経由でブートして稼働させ、非常に高速なシステム処理ができ、学生がレポート作成に必要とする動画や画像もスムーズに取り込むことも可能。業務システムのインストールやセキュリティパッチを反映する手間が省けるため、管理工数を大幅に削減できる。

●管理業務を行う職員向けに画面転送型シンクライアントシステム(端末21台)を導入:クライアントはディスクレス端末(NEC TC-Station シンクライアント)のため、端末から情報漏洩する可能性はきわめて低い。また、サーバ側のシステム画面のみを端末側に転送し、端末側ではその画面を見ながらシステムをリモート操作するだけで処理は全てサーバ側が行うため、ネットワークへの負荷がかからない。さらに、サーバ側に全てのシステムを置くことにより、職員はどの端末からでもログインしてシステムを利用することができる。

NEC ネットエスアイ(株) S&I サービス事業本部
TEL : 03-5463-7603

エンプレックス他

鹿児島県庁に Web コミュニケーションシステムを納入 ～行政と県民の双方向コミュニケーションを活性化～

統合型CRMパッケージ「eMplex CRM」を提供しているエンプレックスは、NTT西日本、NECと共同で鹿児島県庁にWebコミュニケーションシステムを納入した。

本システムは、ホームページを庁内共通で効率的に運営・管理するCMS（Content Management System）と、メールマガジンやアンケートによる県民とのやり取りを一元管理するCRMシステムで構成されている。システムの共通基盤には、エンプレックスが提供するeMplex CRMの「eMplex CMS」と「eMplex EM」を採用し、システム構築をNTT西日本・NECが共同で行った。

本システムの導入により、ホームページの画面レイアウト・ナビゲーションが統一され、県民への情報提供サービス機能が向上。例えば、メールマガジン・アンケートの活用により、行政と県民の双方向コミュニケーションが活性化され、県民の声を活かした県政が可能に。さらに、約140の担当課による迅速で正確なホームページ運営体制を整備し、コンテンツ更新頻度が大幅に向上。現在は1日あたり約50件の情報を追加・更新している。また、Webサイト全体の構成を統一して利便性を向上し、コンテンツ作成工数およびWeb公開に至る期間を大幅に短縮した。

昨今、自治体ホームページは県内外に公開すべき情報量が急増し、災害情報や財政状況など担当課ごとに専門知識を活かしたより詳細な情報をタイムリーに公開する体制が求められている。さらに、工業標準化法や総務省が策定した「みんなの公共サイト運用モデル」により、レイアウトやナビゲーションなど、ページに関する共通ルールの徹底が義務づけられている。一方で、鹿児島県庁のように、ホームページのコンテンツ管理が複雑化し、管理工数の増加やコンテンツの統一感の維持が課題となっていた。今回構築したシステムは、このような状況に対応するものである。

エンプレックス(株) 営業本部
TEL：03-5568-7331

リバーベッドテクノロジー

三菱自動車が「Steelhead アプライアンス」で IT インフラを統合

リバーベッドテクノロジーは、三菱自動車が同社のSteelhead製品シリーズ「WDS（ワイドエリアデータサービス）アプライアンス」を導入したことを発表した。

三菱自動車は、設立以来30有余年にわたって乗用車・トラック・バスの生産・販売を行ってきたが、2003年からは乗用車専業の新生・三菱自動車としてスタートを切っている。同社は日本国内10カ所の拠点に加え、アメリカ、オーストラリア、ドイツのデザイン拠点や、タイ、フィリピン、オーストラリア、オランダの生産拠点など、海外に11カ所の拠点を展開している。

現在、三菱自動車は、国内拠点のうちの4拠点のファイルサーバを1拠点に統合するプロジェクトを進めている。これにより、拠点オフィスでのファイルサーバやテープのバックアップが不要となることで、データの安全性の向上とコストや運用諸経費を大幅に削減することを期待している。このプロジェクトを進めるにあたり、基幹アプリケーションのパフォーマンスが劣化しないことが前提条件となっていた。そこで、リバーベッドの販売パートナーであるネットマークス社が、ユーザー・パフォーマンスに影響を与えずにIT統合を実現するソリューションとして、Steelhead アプライアンスを提案した。

同製品を採用した理由は、リバーベッドのソリューションがCIFS、NFSなどの三菱自動車にとって重要となる広範なアプリケーションやプロトコルにおいて、最高のパフォーマンスを発揮したからである。三菱自動車は、5,000人以上のユーザーを擁する国内4カ所の拠点に同製品を導入したことにより、社内の50以上のサーバを削減し、セキュリティ対策を施した技術センターに重要データを移管できた。また、WANトラフィックは想定増加量の90%以上が削除されWAN帯域を増強することなく、拠点オフィスのエンドユーザーにLAN並みのパフォーマンスを提供できるようになった。

リバーベッドテクノロジー(株) マーケティング部
TEL：03-5419-1988